

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第10号

きゅうりの病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**きゅうりべと病の発生が急激に多くなっています。
防除対策の徹底を図りましょう。**

1 作物名 冬春きゅうり

2 病害虫名 べと病

3 発生状況

(1) 3月中旬の巡回調査における発生面積率は90.0%（前年81.9%、平年55.9%）、発病葉率は34.3%（前年31.9%、平年16.4%）で、いずれも平年に比べ多い発生であった。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている（図1～3）。

(2) 向こう1か月の気象予報では、気温の高い確率が70%と予報されており、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（3月12日鹿児島地方気象台発表1か月予報）。

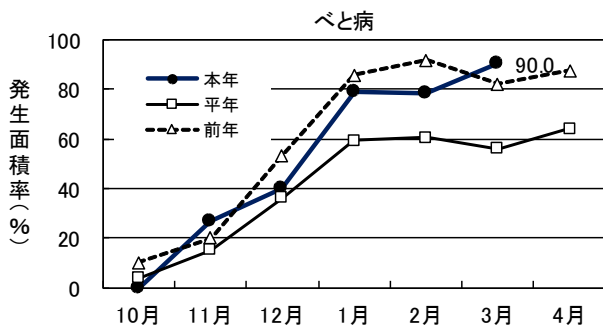


図1 発生面積率の推移

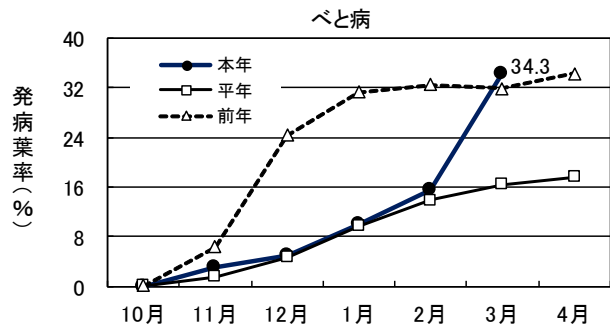


図2 発病葉率の推移



図3 べと病の病徴

4 防除上の注意

- 1) 気象条件や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、葉に結露が生じないように換気や温度調節を行い、施設内の管理を徹底する。
 - 2) 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
 - 3) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、速やかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
 - 4) 多発時はべと病を対象とする専用の農薬を使用し、新葉の展開にあわせて葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。また、多発時の1回散布では、防除効果が現れにくいことがあるので、7日間隔で2回以上の連続防除を実施する。
 - 5) 農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。また複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。
- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
（病虫害防除・肥料検査センター） 黒木・松浦
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp